

令和6年3月28日

## 令和5年度日本芸術院賞授賞者の決定について

(日本芸術院賞9名、重ねて恩賜賞3名)

日本芸術院（院長 野村萬）は、日本芸術院賞授賞者9名（うち、3名に対し重ねて恩賜賞授賞）を決定いたしましたので、お知らせします。

## 1. 日本芸術院賞の授賞について

日本芸術院は、毎年、卓越した芸術作品又は芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる者に対して恩賜賞・日本芸術院賞の授賞を行っています。

日本芸術院の授賞制度は、昭和16年度に日本芸術院賞、昭和24年度に恩賜賞が創設され、令和5年度で80回目の授賞となります。

## 2. 授賞者について（授賞者の授賞理由及び略歴等は別添資料を御覧ください。）

【第一部（美術）】※「日本芸術院賞」は分科、分科内の五十音順

恩賜賞・日本芸術院賞	くま けんご 隈 研吾
日本芸術院賞	おおや のり 大矢 紀
日本芸術院賞	まちだ ひろぶみ 町田 博文
日本芸術院賞	やまぎし たいせい 山岸 大成
日本芸術院賞	たかぎ あつひと 高木 厚人

【第二部（文芸）】

恩賜賞・日本芸術院賞	たわだ ようこ 多和田 葉子
日本芸術院賞	きりの なつお (本名：橋岡 まり子) 桐野 夏生

【第三部（音楽・演劇・舞踊）】

恩賜賞・日本芸術院賞	ふくおう しげじゅうろう (本名：福王 輝幸) 福王 茂十郎
日本芸術院賞	きねや かつしろう (本名：村治 崇光) 杵屋 勝四郎

## 3. 授賞式について

令和6年6月上旬～7月上旬の間に日本芸術院会館（東京都台東区）において行う予定です。

※今後の調整により変更となる可能性もあります。

&lt;担当&gt;

日本芸術院

事務長 小松 清

専門職 鳥生 浩司

電話 03-3821-7191

令和5年度日本芸術院授賞者一覧

部	専門	氏名[雅号・筆名・芸名] ( )は本名
第一部 (美術)	絵画	おおや のり 大矢 紀
	絵画	まちだ ひろぶみ 町田 博文
	工芸	やまぎし たいせい 山岸 大成
	書	たかぎ あつひと 高木 厚人
	建築・デザイン	◎ くま けんご 隈 研吾
第二部 (文芸)	小説	きりの なつお (はしおか まり子) 桐野 夏生 (橋岡 まり子)
	小説・詩	◎ たわだ ようこ 多和田 葉子
第三部 (音楽・演劇・舞踊)	長唄	きねや かつしろう (むらじ たかみつ) 杵屋 勝四郎 (村治 崇光)
	能楽	◎ ふくおう しげじゅうろう (ふくおう てるゆき) 福王 茂十郎 (福王 輝幸)

- [備考] 1. 氏名欄に◎の記載ある者は、「恩賜賞及び日本芸術院賞」の授賞者を示す。  
 2. 氏名欄に◎の記載ない者は、「日本芸術院賞」の授賞者を示す。  
 3. 第一部は、分科、分科内の雅号の五十音順で記載している。  
 4. 第二部は、全授賞者の筆名の五十音順で記載している。  
 5. 第三部は、全授賞者の芸名の五十音順で記載している。

絵画

おお や のり  
大 矢 紀



職名（肩書き） 日本画家

昭和11年生まれ 88歳

授賞対象

「<sup>きた</sup>北の<sup>しんざん</sup>神山」（令和4年再興第107回院展出品作）に対し

授賞理由

「北の神山」は、晩秋の林の樹間から深まる秋の紅葉と冷たく静謐な支笏湖が描かれている。アイヌの人々がカムイ神と敬愛する白雪を冠る山嶺は、神々しい靈気と巨大なエネルギーを内に秘め、観る者はその強靱的存在感に圧倒される。そして彼方には限りなく深く遠い空が広がる。全体的に素純で、少し無骨なぐらいの男性的画趣の中にも日本画的装飾感が生かされ、清々しい自然の空気が流れている。作者の自然に対する敬虔な気持ちが、大自然に宿る気高き神々の姿を感じ捉えた力作であり、授賞にふさわしい作品である。

#### 【略歴】

平成10年（財）日本美術院同人（同12年評議員、同23年まで、同29年から現在まで

※現公益財団法人）

平成12年 新潟県長岡市名誉市民

平成27年 新潟県五泉市観光大使（現在まで）

#### 【賞歴】

昭和51年 再興院展日本美術院賞・大観賞

昭和54年 紺綬褒章（後7回）

平成11年 新潟日報文化賞

平成16年 川崎市文化賞

平成17年 再興院展文部科学大臣賞

平成20年 再興院展内閣総理大臣賞

平成25年 新潟県知事表彰

令和2年 神奈川文化賞

絵画

まち だ ひろ ぶみ  
町 田 博 文



職名（肩書き） 洋画家

昭和28年12月18日 茨城県生まれ 70歳

授賞対象

「<sup>ゆき</sup>雪はれる」（令和5年第10回日展出品作）に対し

授賞理由

町田博文氏の作品制作の根幹に流れるのは、清麗な表現である。画面全体から流れ出る形と色彩の調和は淀なく、強い作意を感じさせることなく、視覚に入り心を打つ。これは今回の受賞作品に限らず一貫して流れている感性である。このような特性は、作者の持っている本質的に持ち合わせた精神的なバランスに帰する所為であると感じられる。今後の制作活動に於いても、持っている資質を伸びやかに画面の中に展開することを期待する。

#### 【略歴】

昭和51年 茨城大学教育学部美術科卒業

昭和51年 光風会展初入選

昭和51年 寺島龍一（日本芸術院会員）に師事

平成22年 （社）日展会員（令和2年監事、同4年理事、現在まで ※現公益社団法人）

平成24年 （一社）光風会理事（同29年事務局長、令和4年常務理事、現在まで）

平成26年 茨城県美術展覧会副会長（現在まで）

令和 3年 茨城県文化審議会委員（現在まで）

#### 【賞歴】

平成12年 日展特選（後1回）

平成20年 光風会展文部科学大臣賞

平成30年 日展文部科学大臣賞

令和 2年 茨城県功績者表彰

令和 5年 地域文化功労者表彰

工芸

やま ぎし たい せい  
山 岸 大 成



職名（肩書き） 工芸家

昭和31年2月21日 石川県生まれ 68歳

授賞対象

「<sup>かみがみ</sup>神々の座<sup>ざ</sup> 『<sup>わたつみ</sup>綿津見』」（令和5年第10回日展出品作）に対し

授賞理由

青白磁による単純無垢なオブジェは、素地の美しさの中に独自の造形思考を見事に顕現した逸品である。近年の「神々の座」をテーマとしたシリーズの作品は、海をつかさどる神、綿津見への人々の敬虔な祈りを表現した精神性の高いものである。特に、磁土による板状のものを巧みに組み合わせ、寸分の歪みなく焼成せしめた卓越した技術力は、独創性に富み他の追随を許さない。また、九谷焼の伝統を担い受け継ぎながら、更に開拓、発展を目指す作家として大いに期待される。

#### 【略歴】

昭和53年 金沢美術工芸大学卒業

昭和63年 日本現代工芸美術展審査員（後9回）

平成9年 （社）現代工芸美術家協会評議員（同24年理事、現在まで ※現一般社団法人）

平成11年 （社）日展審査員（後6回） ※現公益社団法人

平成19年 （社）日展評議員（同26年まで）

#### 【賞歴】

昭和55年 日本現代工芸美術展現代工芸賞

平成2年 日展特選（後1回）

平成20年 日本現代工芸美術展文部科学大臣賞

平成24年 日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞

令和2年 日展東京都知事賞

令和3年 石川県文化功労賞

令和4年 日展内閣総理大臣賞

書

たか ぎ あつ ひと  
高 木 厚 人



職名（肩書き） 書家

昭和28年9月21日 千葉県生まれ 70歳

授賞対象

「<sup>やま</sup>山ざと」（令和5年第10回日展出品作）に対し

授賞理由

高木厚人氏は、日本古来のかな書を専門とし、伝統を受け継ぎながらも現代性を追求している。受賞作は師である杉岡華邨が築き上げた作品構成理論を、独自の造形感覚で新しい世界の構築に成功している。中国の古典や日本の古筆を礎とし、深い洞察力とともに強い筆力と巧みな墨の扱いが見事である。特に、墨の多い部分とかすれ気味の部分の濃淡の調和には熟慮のあとがよく見える。文字の連なりは景色となって、絵画を見るが如き作品となった。

#### 【略歴】

- 昭和47年 東京都立九段高等学校卒業
- 昭和50年 杉岡華邨に師事
- 昭和57年 京都大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業
- 昭和59年 日展初入選
- 平成7年 大阪教育大学助教授（同11年まで）
- 平成11年 大東文化大学文学部助教授（同16年教授、現在まで）
- 平成15年 日展審査員（後5回）
- 平成24年 現代書道二十人展メンバー（現在まで）
- 令和2年 奈良市杉岡華邨書道美術館館長（現在まで）

#### 【賞歴】

- 平成4年 日展特選（後1回）
- 平成17年 日展日展会員賞
- 平成30年 日展内閣総理大臣賞

建築・デザイン

くま けん ご  
隈 研 吾



(撮影 J.C.Carbonne)

職名（肩書き） 建築家

昭和29年8月8日 神奈川県生まれ 69歳

授賞対象

「<sup>ヴイ・あんど・エー</sup>V & A Dundee」（平成30年9月竣工）に対し

授賞理由

隈研吾氏が設計した英国国立ヴィクトリア&アルバート博物館スコットランド分館である「V&A Dundee」は水辺に着地したノアの方舟の如く暗示的な佇まいが異彩を放つ。内部には博物館としての膨大な情報の集積に加え、広い空間が中央部に広がり、さながらノアの方舟の船内のように人々はここでさまざまな集いを行い、文化芸術を軸とした交流の場を成立させ、人類文化の未来に向かって希望を押し広げている。この黙示録的とも言えるデザインコンセプトは全世界から大きな反響を呼んでおり、日本芸術院会員からも高い支持を得た。

#### 【略歴】

- 昭和52年 東京大学工学部建築学科卒業（同54年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了）
- 昭和60年 コロンビア大学建築・都市計画学科研究員（同61年まで、平成6年同大学院建築・都市計画学科講師）
- 平成2年 隈研吾建築都市設計事務所設立
- 平成10年 慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授（同11年総合政策学部特別招聘教授、共に同11年まで、同13年理工学部客員教授、同19年教授、同21年まで）
- 平成21年 東京大学工学部教授（令和2年特別教授・名誉教授）

#### 【賞歴】

- 平成9年 日本建築学会賞
- 平成22年 フランス芸術文化勲章オフィシエ
- 平成23年 芸術選奨文部科学大臣賞
- 令和元年 紫綬褒章

小説

きり の なつ お  
**桐 野 夏 生**  
(本名 はしおか 橋岡 こ まり子)



(中央公論新社 提供)

職名（肩書き） 小説家

昭和26年生まれ 72歳

授賞対象

ミステリーから純文学作品まで幅広い創作活動による傑出した文学的業績に対し

授賞理由

桐野夏生氏は、重く切実な社会的テーマを巧緻なプロットと重厚な筆致によって小説化し、ミステリー作家として高い名声を得たが、やがてその作品はエンターテインメントの枠を越え、一流の文学作品としての高雅な風格を得るに至った。豊かな物語性、社会の現実への鋭い批判意識、人生の哀歓の鮮烈な表現において、桐野氏は今や現代日本の最高の小説家の一人である。また女性として初めて(一社)日本ペンクラブ会長を務めるなど、多大な社会的貢献を行って来ている。その傑出した文学的業績は、日本芸術院賞によって顕彰されるにふさわしい。

#### 【略歴】

平成22年 谷崎潤一郎賞選考委員（現在まで）  
平成23年 直木三十五賞選考委員（現在まで）  
平成27年 柴田錬三郎賞選考委員（現在まで）  
令和 元年 (一社)日本ペンクラブ理事（同3年会長、現在まで）

#### 【賞歴】

平成11年 直木三十五賞  
平成16年 柴田錬三郎賞  
平成20年 谷崎潤一郎賞  
平成23年 読売文学賞・小説賞  
平成27年 紫綬褒章  
令和 3年 早稲田大学坪内逍遙大賞  
令和 5年 毎日芸術賞・文学I部門  
令和 5年 吉川英治文学賞



小説・詩

た わ だ よう こ  
多 和 田 葉 子



職名（肩書き） 小説家・詩人

昭和35年 東京都生まれ

授賞対象

小説を中心とする多年にわたる文学的業績に対し

授賞理由

文壇登場作「かかとを失くして」から最新作「白鶴亮翹」にいたるまで、言語と意識という根本的な主題を、さまざまな物語を先端的な手法で紡ぐことによって、一貫して追究してゆく姿勢は賞賛に値する。また、ドイツに居を定め、日本語、ドイツ語を等しく発表手段として用い、日独、ひいては日欧の文化の微妙な違いを浮き彫りにしてゆく独特な流儀は、いまや国際的に高く評価されているが、日本語、ドイツ語の富の拡大として画期を成すものと言うべきである。

#### 【略歴】

昭和57年 早稲田大学第一文学部ロシア文学科卒業

平成4年 ハンブルク大学大学院修士課程修了

平成12年 チューリッヒ大学大学院ドイツ文学博士課程修了（文学博士）

#### 【賞歴】

平成5年 芥川龍之介賞

平成25年 読売文学賞・小説賞

平成25年 芸術選奨文部科学大臣賞

平成28年 クライスト賞

平成30年 国際交流基金賞

平成30年 全米図書賞 翻訳文学部門

令和2年 朝日賞

令和2年 紫綬褒章

令和5年 毎日出版文化賞

長唄

きね や かつ し ろう  
杵 屋 勝 四 郎

(本名 村治 崇光)



職名（肩書き） 長唄唄方

昭和34年1月3日 東京都生まれ 65歳

#### 授賞対象

長年の研鑽により長唄唄方として優れた力量を示したことに對し

#### 授賞理由

長唄職分の家に生まれ、東京藝術大学音楽学部にて錚々たる長唄の各師のもと研鑽を重ねた。演奏家として10回の自主公演を開催して文化庁芸術祭音楽部門大賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞する等、演奏家としての活動は顕著である。また、長唄の普及の為、日本各地に赴き、指導を続け、後継者の育成にも力を注いでいる。今回の受賞を機に更なる精進とますますの成果を期待するものである。

#### 【略歴】

- 昭和40年 杵屋勝国（重要無形文化財（各個認定）保持者）に師事
- 昭和49年 東音宮田哲男（重要無形文化財（各個認定）保持者、日本芸術院会員）に師事
- 昭和56年 （財）杵勝会の名取・杵屋崇光となる（同57年評議員、平成17年理事、現在まで  
※現一般財団法人）
- 昭和56年 （社）長唄協会会員（令和5年理事、現在まで ※現一般社団法人）
- 昭和57年 東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業
- 平成19年 六代目杵屋勝四郎襲名
- 令和2年 重要無形文化財「長唄」（総合認定）保持者
- 令和5年 重要無形文化財「日本舞踊」（総合認定）保持者

#### 【賞歴】

- 平成26年 文化庁芸術祭音楽部門大賞
- 平成28年 松尾芸能賞優秀賞
- 平成31年 芸術選奨文部科学大臣賞

能楽

ふく おう しげ じゅう ろう  
福 王 茂 十 郎  
(本名 ふくおう てるゆき  
福王 輝幸)



職名（肩書き） 能楽ワキ方福王流十六世宗家  
昭和18年生まれ 80歳

#### 授賞対象

長年にわたる能楽の普及・発展ならびに後進の育成等、その顕著な業績に対し

#### 授賞理由

福王流十五世宗家福王茂十郎の長男として生を受け、幼少より父の厳しい指導のもと精進を重ね、若くして福王流十六世宗家を継承、斯道一筋。総合芸術・能に於いて、扇の要ともいうべきワキ方として、長年多くの舞台を支えてきた。柔らかくも端正な姿は、深い包容力で共演者をつつみ、格式ある舞台を作り上げ、現在斯界にとり、掛け替えのない存在である。近年は復曲上演にも取り組み、関西圏のみならず東京の舞台にも乞われ、活躍の場を広げ、その功績は大きく誠に顕著である。

#### 【略歴】

- 昭和25年 能「岩船」にて初舞台
- 昭和41年 慶應義塾大学文学部国文学科卒業
- 昭和51年 福王流宗家を継承
- 昭和57年 重要無形文化財「能楽」（総合認定）保持者
- 昭和60年 (社)能楽協会理事（同62年まで、平成3年から同17年まで、同19年、常務理事：  
昭和62年から平成3年まで、同19年から同22年まで、副理事長：同22年から  
同26年まで ※現公益社団法人）
- 令和2年 文化功労者
- 令和5年 大阪能楽養成会監事（現在まで）

#### 【賞歴】

- 平成14年 芸術選奨文部科学大臣賞
- 平成15年 紫綬褒章
- 平成29年 旭日小綬章

## 1. 恩賜賞・日本芸術院賞について

### (1) 概要

日本芸術院賞は、卓越した芸術作品又は芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して授賞されます。また、恩賜賞は日本芸術院賞の中から、第一部から第三部までの各部1名以内に授賞されます。

本院における授賞制度は、昭和16年度に帝国芸術院賞(昭和22年度から日本芸術院賞)が創設され、恩賜賞は昭和24年度から設けられています。

授賞式は、昭和17年(16年度)から戦中、戦後の一時期を除いて毎年举行され、今回で80回目になります。

昭和25年以降の授賞式には天皇陛下の行幸を、平成2年からは天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで举行されています。

### (2) 第1回授賞より今回授賞までの授賞人数

恩賜賞：139名

日本芸術院賞：695名

### (3) 選考方法

日本芸術院賞候補の推薦は、毎年度、日本芸術院会員により行われ、全会員で組織する授賞候補者選考委員会において選考します。授賞は、各部の選考、総会による承認をもって授賞候補者を決め、その候補者について、各部における投票を経て総会で承認を得ることにより決定します。

### (4) 授与品

恩賜賞：賞状、賜品(御紋付銀花瓶1個)

日本芸術院賞：賞状、賞牌(1人1個)、賞金(1件100万円)

### (5) 授賞式

令和6年6月上旬～7月上旬の間に日本芸術院会館(東京都台東区)において行う予定です。

※今後の調整により変更となる可能性もあります。

## 2. 日本芸術院について

### (1) 設置目的

日本芸術院は、美術、文芸、音楽、演劇、舞踊等芸術各分野の優れた芸術家を優遇するための荣誉機関として設置されています。

### (2) 沿革

日本芸術院は、明治40年6月に文部省美術展覧会(文展)を開催するために設けられた美術審査委員会を母体とし、大正8年9月に「帝国美術院」として創設されました。その後、昭和12年6月に美術のほかに文芸、音楽、演劇、舞踊の分野を加え「帝国芸術院」に改組されるなどの拡充を経て、昭和22年12月に「日本芸術院」と名称を変更し、今日に至っています。

### (3) 組織

日本芸術院は、院長1名と会員(終身)120名以内で構成され、会則により3部18分科に分かれ所属し、本院の設置目的を達するため必要な事業を行います。

院長は、芸術に関し卓越した識見を有する者について、会員による選挙を経て、総会の承認を得ることにより決定し、文部科学大臣により任命されます。

会員は、外部有識者で組織する推薦委員会及び会員による推薦、会員と外部有識者で組織する選考委員会による絞込み、会員による選挙を経て、総会の承認を得ることにより決定し、文部科学大臣により任命されます。

第一部 「美術」	第 1分科 第 2分科 第 3分科 第 4分科 第 5分科 第 6分科	絵画 彫刻 工芸 書 建築・デザイン 写真・映像
第二部 「文芸」	第 7分科 第 8分科 第 9分科 第10分科	小説・戯曲 詩歌 評論・翻訳 マンガ
第三部 「音楽・演劇・舞踊」	第11分科 第12分科 第13分科 第14分科 第15分科 第16分科 第17分科 第18分科	能楽 歌舞伎 文楽 邦楽 洋楽 舞踊 演劇 映画 ※アニメーションや放送、脚本を含む

#### (4) 主な事業

- ① 芸術の発達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重要事項を審議し、これに関し文部科学大臣又は文化庁長官に意見を述べることができます。
- ② 会員以外の者で、卓越した芸術作品と認められるものを制作した者及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる者に対して、毎年、恩賜賞と日本芸術院賞を授賞しています。
- ③ 前記の他、恩賜賞・日本芸術院賞受賞作品展(無料)、会員講演会等の開催(無料)、日本芸術院会員記録の制作、日本芸術院の活動記録作製等を行っています。

### 3. 関係法規 (抄)

#### (1) 日本芸術院令

第1条 日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための栄誉機関とする。

第2条 日本芸術院は、院長1人及び会員120人以内で組織する。

#### (2) 日本芸術院会則

第3条 日本芸術院は、卓越した芸術作品と認められるものを制作した者及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して賞を授ける。

#### (3) 日本芸術院授賞規則

第1条 日本芸術院は、卓越した芸術作品、又は芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して授賞する。

第2条 賞は恩賜賞及び日本芸術院賞とする。

2 恩賜賞は、毎年各部1個以内とし、当該年度の日本芸術院賞中よりこれを推薦するものとする。

第3条 恩賜賞は、賜品とする。

2 日本芸術院賞は、賞牌、賞状及び賞金とする。